

【第七回】

諸橋轍次記念

漢字文化理解力検定

二〇二四年十月六日

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なものと大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

【問題1】(44点)

次に掲げるのは、「漢字漢語談義 国語の中の漢語」という文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(問題作成にあたって、一部、文字遣いや文章を改めたところがある。)

問う人 いったい漢語はどんな形で日本語の中にどの程度入っているのでしょうか。

諸橋 早くいえば日本の古典の中からまず純粋な日本語を拾い出し、それを除いた以外のものがだいたい漢語から来ていると見たら間違いないでしょう。それは限りないほど多いものでしょう。第一、物の名前にしても「マツ」(松)といえば日本語でしょうが「ウメ」といえば漢語の梅(メイ)から来たものでしょう。また「ウシ」といえば日本語ですが「ウマ」といえば漢語の馬(マー)から来たものでしょう。況んや二字の物名になるとほとんどすべてが漢語から来ていますよ。「葡萄」でも「①桔梗」でも「牡丹」でも。

物名についていいますと、漢字には音と訓とがあることはご承知の通りであります。その②音と訓とが同じものであれば、それはだいたい漢語から来た日本語であります。「菊」は音も訓も「キク」でしょう。そうすると日本語と思う「キク」という物名は実は漢語から来たものです。「蘭」は音も訓も「ラン」でしょう。そうすると日本語と思う「ラン」という物名は漢語から来たものです。そう考えて来ると漢語から出来ている日本語も意外に多くあります。

問う人 なるほど、その例は多いですね。そしてそれは動植物に限ったわけではないでしょうな。

諸橋 そうです。それについて私は③嘗てラジオの「話の泉」に投書したことがあります。それは漢字には音と訓とがあるが、その音と訓との同一であるものを(一)花について、(二)動物について、(三)虫について、(四)私どもの住居の部分について、

(五) 道德上の徳名について、各々二つか三つずつ数え上げなさいというのです。どうです。あなた今ここで一つ考えてご覧なさい。

問う人 さア、動物では㉞豹ヒョウなどはそれですね。

諸橋 そうそう。それに犀サイなどもね。

問う人 花はさつきのキク(菊)や、ラン(蘭)がそれだし、虫では何かな。

諸橋 「A」でも「B」でも。それに住居関係は。

問う人 門、塀などですか。

諸橋 その通りです。そして徳名には、忠でも孝でも、仁でも㉟ギキでも皆その通りです。なかなか面白い話の泉でしょう。

これと関連して話は少し外へそれますが、㊱象ゾウという動物は元来印度インドやその他西域地方にのみいたもので、中国にはおらなかつたものらしい。そこで、象は鼻の長いものだとか、脚の太いものだとか話に聞いてその実在は信じながらも、といってかくかくのものだということは、誰でも言い切ることが出来ない。そこでかくかくのものであらうと考えることから、「想像」という語が出来ております。想像は実は「想像」であります。現に曹植曹植という人の「洛神賦洛神賦」などの中には、想像と書かずに想像と書いております。そしてこの考えの中に描いた実物が現われると、それは現象となり、その実物を㉚ノウリノウリに印しておればそれが「C」となるのであります。㉛韓非子韓非子という人の文に生きている象を見たいと希望している人が、死んだ象の骨を拾うて、その骨を㉜アンアンじて生象の姿を想像している話が出ていますが、文末に「故に諸人の意想する㉝所以所以の者皆之これを象と謂ふ。」と結んでいるのはこれが為であります。一字の使用からもいろいろ文化進展の変化までを見得るのはおもしろいではありませんか。

問う人 今後新しく作る国語は漢字を用いないで作るとしたらどうでしょう。

諸橋 もし出来るものならばそれもよいでしょう。しかし明治以来新造語の出来た傾向から考えて、それはほとんど不可能だと思います。もし無理に漢字を用いずにいこうとすれば、恐らくは造語力の極端な貧困に㉞ソウグウソウグウして、時勢の進運に伴わぬであ

りましょう。

問う人 しかし漢語は目で見ては分り易いが、耳で聞いては解りにくいということはよく聞く議論であります。

諸橋 その点はいく分はそうかも知れません。しかし我が国の漢語は国語の中に融け込んであるものだけが、平素使われているのですから、別に漢語だからといって聞きにくいことはありません。「不思議」といつても「**f**勿論」といつても、もとはみな漢語であります、別に耳に聞いて解りにくいことはありません。すべて言葉というものは最初は原義にとらわれても後にはそれが或る一定の概念と結びつく、その時には既に聴覚的になつてくるものであります。漢字を用いるのは国語の宿命だと思ひます。

問う人 世上の議論はやはり国語から漢語をなくそう、ことに新しい言葉には漢語を用いないようにしようという議論が多いのですが、それについてはどう考えたらよいでしょう。

諸橋 我が国の国語の発達とその後の現実から見て、若干の漢語を用いまたこれを若干の漢字であらわすことは我々日本人に課せられた宿命だと考えています。その宿命も、いやいやながらの宿命ではなく、或る点では**g**彼此の長を採ったありがたい宿命だと考えています。

言葉はやさしくだけすればそれでよいというものではありません。美しい**7**ガンチクのあるものも必要であります。それはちようど卵と豆腐は消化がよくて滋養もあるが、人はそれだけでは満足出来ぬと同様であります。たまにはやはり肉もさしみも食べなければなりません。新造語に漢字を用いた漢語の多く出来るのは、その自然の要求に基づくのであります。それをしも無視して無理に漢字をしりぞけたら、恐らくは造語力の貧困に**8**逢着するでありましょう。要はその場合、**9**ソアク不可解の悪語を作らぬ工夫を必要とするということです。

問う人 ではまたもとの問題にかえるようですが、漢語はいくらあつてもよい、とにかくこれを表わすに**h**ローマ字とかカナとかの表音文字によろうとする議論はどうでしょう。

諸橋 日本の国語に漢語が多いということを前提といたしますと、同音で**10**イギの言葉の多いことも認めなければなりません。したがって表音文字のみによれば色々の混乱の起こることを予想しなければなりません。若干国語に整理を加えるとしても、この

点の不自由は免れません。このことはよそ事ながら中国でも同一だと思えます。次に①目で見る場合には表意文字が表音文字にまさるといふことは前々の議論であなたも承知されたことでしょう。だとすれば我が国の国語の発生発達の歴史上の現実に即して、宿命として漢字の活用を認めなければなりません。それをしも押し切つてカナ書きにする、ローマ字書きにするという事は不便でもあり不必要でもあり、不可能でもありません。

問う人 よく分かりました。お話だとまず漢字漢語の存続は大丈夫ですね。(笑)

諸橋 当分はね。千年や二千年は。

(『諸橋轍次著作集 第九巻』大修館書店、一九七五年による)

*1 話の泉 かつてNHKラジオで放送されていた番組名。

問1 波線部①～⑩について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで書きなさい。(各2点)

問2 傍線部a「音と訓とが同じもの」は、その漢字の意味に相当する読み方がなく、音がそのまま使われる漢字をいう。「常用

漢字表」で音のみが掲載されている漢字群を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 亜 位 宇 絵 イ 庄 域 羽 英
ウ 愛 医 駅 関 エ 哀 依 悦 円

問3 傍線部b「嘗」について、『大漢和辞典』で同じ部首に分類されている漢字を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 商 イ 常 ウ 冠 エ 旨

問4 傍線部c「豹」は、『大漢和辞典』ではどの部首に分類されているか。部首名をひらがなで書きなさい。(2点)

問5 空欄A・Bに該当する漢字を次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(各2点)

- ア 蚕 イ 蛾 ウ 蚊 エ 蚩
オ 虱 カ 蝶 キ 蠅 ク 虹

問6 傍線部④「象」の甲骨文字を次から一つ選んで記号で答えなさい。(2点)

- ア  イ  ウ  エ 

問7 空欄Cに該当する二字の熟語を答えなさい。(2点)

問8 傍線部⑤「韓非子」と最も縁の深い語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 助長 イ 杞憂 ウ 矛盾 エ 朝三暮四

問9 傍線部⑥「勿論」と同意の語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 異論 イ 空論 ウ 詳論 エ 無論

問10 傍線部⑧「彼此の長」のここでの意味として適切なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。(2点)

- ア 中国と日本の特長 イ 漢語と和語の長所
ウ 中国と日本の首長 エ 漢語と和語の歴史の長さ

問11 傍線部⑥「ローマ字とかカナとかの表音文字によるうとする議論」とあるが、幕末に將軍徳川慶喜よしのぶに「漢字御廃止之議おんはいし」という建白書を奉った人物は誰か。次の中から一人選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 勝海舟 イ 西郷隆盛 ウ 森有礼ありのり エ 前島密ひそか

問12 傍線部①「目で見る場合には表意文字が表音文字にまさる」とあるが、その例として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 日本語を母語とする者にとって、走行中の電車から、ローマ字で書かれた長い駅名を瞬時に読みとるのは難しいこと。
イ 日本語に習熟していない訪日外国人に向けて、地名や施設名の表記に必ずローマ字を添えるように行政指導が行われていること。

ウ 「規定」と「規程」のように、日本語には同音で意味の異なる語が多く、日本語を母語とする者でも耳で聞いただけでは意味の判断に迷うことが多々あること。

エ トラックの車体の右側面に、通行人の読み取りやすさに配慮して、会社名や会社所在地などを右から左に向けて書いてあること。

【問題Ⅱ】(20点)

漢字や漢語、漢字文化に関するあとの問いに答えなさい。

問1 次の①～③には、使い方が正しくない漢字がそれぞれ一つずつ含まれている。例にならって正しい漢字に改めなさい。(各2点)

〔例〕俳句の季語を、才時記を使って調べる。〔解答〕才 ↓ 歳

①利益が上がらず、このままでは赤字になるのは必死だ。

②怪しい雰囲気を感じ、背後を省みる。

③明治の文豪、夏目漱石は、享年四十九で亡くなった。

問2 次の①～③に当てはまるものを選択肢の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(各2点)

①「今風」を「いまふう」と読むように、一文字目を訓読みで読み、二文字目を音読みで読む読み方をするもの

ア 素質 イ 絵心 ウ 荷車 エ 場面

②「紅葉」を「もみじ」と読むように、漢字二文字をまとめて一つのことばとして読み、一文字ずつにはけっして分解できない読み方をするものがあるもの

ア 胸座 イ 魚籠 ウ 盆暗 エ 又焼

③一文字ずつ読むと「はん・おう」となる「反応」が「はんのう」と読まれるように、一文字目の読み方に影響されて、二文字目の読み方が変化しているもの

ア 掃除 イ 猛者 ウ 雪隠 エ 建立

問3 次のア～エの中から誤りを含むものを一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 「一敗地に塗れる」とは、立ち直れないほどこてんぱんに負けてしまうことを意味する、『史記』に由来することばである。

イ 「天網恢恢、疎にして洩らさず」とは、法律が厳しくて犯罪者をけつして逃さないことを意味する、『老子』に由来することばである。

ウ 「木に縁りて魚を求む」とは、方法が正しくないと目的は果たせないことを意味する、『孟子』に由来することばである。

エ 「虎の尾を踏む」とは、たいへんな危険を冒すことを意味する、『易経』に由来することばである。

問4 次に示す四字熟語のうち、中国の古典との関係が最も薄い四字熟語はどれか。一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 温故知新 イ 国士無双 ウ 輕薄短小 エ 大器晚成

問5 (1)次に掲げるア～エの四人のうち、業績や評価などから見た場合に一人だけ他の三人とは異質な人物を選ぶとしたら、

誰になるか。(2)また、その理由としてふさわしいのはA～Dのうちどれか。それぞれ記号で答えなさい。(完答4点)

(1) ア 藤原道長 イ 藤原佐理 ウ 藤原行成 エ 小野道風

(2) A 他の三人はみんな「三大臣」と呼ばれる、太政大臣になった人だから。

B 他の三人はみんな「三聖」と呼ばれる、人徳の高い人だから。

C 他の三人はみんな「三歌仙」と呼ばれる、すぐれた歌人だから。

D 他の三人はみんな「三跡」と呼ばれる、書道の名人だから。

【問題Ⅲ】(15点)

国字(日本で作られた漢字)・国訓(日本で作られた字義)について、あとの問いに答えなさい。

問1 「糶」という字は、やまとことば(和語)の名詞を書き表すために日本で作られ、使われてきた漢字、つまり国字である。

(1) この字の一般的な読み方を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア もみじ イ かば ウ こうじ エ ごみ

(2) この「糶」に最も近い字義を持つ漢字は次のどれか。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア 噉 イ 麴 ウ 粧 エ 桃

問2 姓や地名などで「羈」という字があるが、これが一字で用いられる際の訓読みをカタカナで書きなさい。(3点)

問3 次の三字の中には、国訓(日本で作られた字義)をもつ字が一つ含まれている。あとの問いに答えなさい。

鋳 餅 穂

(1) その字を選び、その訓読みをひらがなで一つ書きなさい。(3点)

(2) その字の国訓を含む熟語を一つ書きなさい。(3点)

【問題Ⅳ】 (15点)

漢字辞典の部首法についての次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

後漢の許慎が著した現存最古の漢字辞典「A」では、五四〇の部首を立て、その部首下に九〇〇〇字以上の漢字を配置している。「A」の影響は絶大で、後世広く用いられた字書である梁・顧野王の『玉篇』でも「A」の部首が基本的に踏襲されている。しかし、「A」や『玉篇』では、調べたい字がどの部首に配置されるか、またその部首が全書の中でどこに位置するのかがわかりにくいという難点があった。

そこで、検索の便を図るため、宋代には李燾という学者によって、韻書(発音引きの字書)の韻目順に部首を並べた「A」の改編版が作られた。また、仏者の字書といわれる遼・行均の「B」では部首字の声調(四声)ごとに部首を分け、金・韓道昭の編纂した字書「C」では、部首字の声母(頭子音)別に部首を並べて利便性の向上を図っている。

明・梅膺祚の編纂した字書「D」は、部首を部首字の画数順に並べた初期の字書として名高く、この配列方法は後世の字書に大きな影響を与えた。清朝皇帝の勅命により編纂された字書、「E」は、「D」の部首と部首配列を踏襲した字書で、現代の多くの漢和辞典の祖となっている。

問1 AからEまでに入る書名を次の中から選び、記号で答えなさい(各2点)

- | | | | | | | | | | |
|---|-----------|---|--------------|---|-----------|---|--------|---|--------|
| ア | 『九経字様』 | イ | 『四声篇海(五音篇海)』 | ウ | 『字林』 | エ | 『韻海鏡源』 | オ | 『干祿字書』 |
| カ | 『正字通』 | キ | 『字彙』 | ク | 『康熙字典』 | ケ | 『五音集韻』 | | |
| コ | 『龍龕手鏡(鑑)』 | サ | 『説文解字』 | シ | 『紹興重雕大藏音』 | | | | |

問2 傍線部について、この時に用いられたのは宋代の『集韻』^{しゅういん}という韻書である。『集韻』は宋代の代表的な韻書『広韻』^{くわいん}の体裁を踏襲したものであるが、『集韻』の韻目数について、正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 一〇六 イ 一〇八 ウ 一九三 エ 二〇六

問3 () A ()の部首法は、冒頭に置かれる部首名と末尾に置かれる部首名から、特に「始」()① ()終」()② ()方式と呼ばれてきた。空欄①・②に入る部首名をそれぞれ漢字一字で書きなさい。(完答3点)

【問題V】(6点)

諸橋轍次の生涯や業績について、あとの問いに答えなさい。

問1 諸橋轍次は、少年期に入学した奥畑米峰の私塾「静修義塾」の教育内容について、後年に「()」の訓えであった。」と語っている。空欄に入る適切な語を一つ選び記号で答えなさい。(3点)

- ア 不朽 イ 不断 ウ 不言 エ 不滅

問2 諸橋轍次は、晩年まで学問への意欲を失わず、数え年百歳にして最後の著作を刊行した。その著作の正しい名称として、空欄に入る漢字二字を書きなさい。(3点)

『孔子・老子・釈迦』()『会談』